



# 四中たより

第5号 R3.7.30(金) 発行責任者 四中学

進もう おおらかに  
学ぼう うるわしく  
励もう たくましく

TEL 31-0911

## 「躍動 ～Show the 四中 spirit～」 充実と団結の1日

今月9日(金)、国体記念体育館で、「躍動 ～Show the 四中 spirit～」のスローガンのもと、四中フェスタ・スポーツの祭典を行いました。今年のスポーツフェスタは5月28日のフェスタ集会を皮切りに準備が始まり、実行委員会を中心に生徒の手で創り上げた見事なフェスタとなりました。

学校を離れた行事なので、少し遠足的な気持ちも入りながら、ゆったりとした気もちでスタートしたフェスタでしたが、競技が進行するにつれ、競技前のクラスごとの円陣にも力が入り、競技場所へは駆け足で移動するなど、キビキビとした態度に。最後まであきらめない姿勢に温かい拍手が送られ、会場に響き渡る場面も。1年生から3年生まで学校が一つになった一日でした。

### ① 開会行事

実行委員長の榎本優翔さんが「責任者を中心に、学級旗づくり、競技練習を行ってきた。ベストマナー賞は廃止したが、ルールや時間を守って活動してきた。クラスの仲間とともに、正々堂々戦い、クラスの団結力や絆を深めよう！」と全校生徒に語りかけ、各クラスの責任者がそれぞれの個性で各クラスの意気込みを発表しました。最後に、副実行委員長の佐藤太誠さんが「最後まで団結し、思い出に残るフェスタにしよう！」と開会宣言を行って令和3年度の四中フェスタ・スポーツの祭典が開幕しました。



### ② ドリブルシュートリレー

1年生は、最初の種目で緊張もあつてか、なかなかゴールにボールが入らない場面もありました。学年が進むにつれて、ドリブルに安定感が増しスピード感も上がってきました。ランニングシューで流れるような得点場面が増え、特に3年生は連続でシュートを決めていました。



### ③ ハリケーン

全学年、迫力がありません。パイプから手を離してはいけないので、特に回転の外側を走る生徒は、遠心力にも負けないようにしっかりパイプにつかまりながら、全力疾走。ちょっと気を緩めると、スピードについていけず、転倒する場面も。手を離したり、転倒したりせず、きれいなウェーブを描くように「足きり」を上手にこなしたチームのタイムが速かったようです。



### ④ 長縄跳び

特に1年生は練習を始めたころはほとんど跳べませんでしたが、本番はどのクラスも合計で70回以上は跳べるようになりました。全体的に縄のゆるみがなく、縄回しが安定してリズムのよいクラスが回数を積み上げていました。優勝ラインは、1年生が100回、2年生が150回、3年生が200回くらいです。



### ⑤ 綱引き

今年復活した競技。トーナメント戦で行われ、30秒みっちり引き合う対戦があれば、一気に引ききってしまう対戦もありで、力がこもり迫力がありました。3年生の決勝は、綱が行ったり来たりする展開でとても見ごたえがありました。



### ⑥ 全員走リレー

どの学年も抜きつ抜かれつとても見ごたえのあるレースでした。順位に関係なく、ゴールすると会場全体が拍手で走者を讃える姿が素敵でした。学年が進むにつれて、体

格もよくなり、周回するスピード感が違っていました。特に3年生のバトンパスは巧みで、3年2組と5組のゴールする寸前までのデッドヒートにはしびれました。どのレースも、必死で走る姿と仲間を精一杯応援する温かい声と終わった後の割れんばかりの拍手の音に感動で目頭が熱くなりました。



## ⑦ 閉会行事

今年から表彰の仕方を変えたこともあり、同点での入賞などが多数あって、接戦だったことが伝わってきました。各クラスの責任者がこれまでを振り返る場面もあり、「全力で楽しめた」「全力で戦い、絆が深まった」「最高の1日だった」「準備してくれた人に感謝」「この団結力を次に活かす」などそれぞれの思いを力強く語りました。最後に、とても良い笑顔で全校写真、クラス写真を撮影して全日程が終了しました。



今年も、コロナ禍にあり、保護者の参観は3年生に限定させていただきました。競技審判はPTA保健部の皆さんと3年保護者の皆さんにお願いいたしました。ご協力いただきました皆様に心より感謝を申し上げます。

# 「出会い」「挑戦」「飛躍」の1学期終了

68日間の1学期が終了しました。庄内のコロナ感染の落ち着き具合を見ながら、1年3か月ぶりに全校を体育館に入れて終業式を行いました。式の中では、1年生：小林歩未さん、2年生：佐藤瞬汰さん、3年生：石川真帆さん、生徒会：佐藤滯さんの代表4名が「1学期を振り返って」を堂々と発表し1学期を締めくくりました。

明日から24日間の夏季休業がスタートします。先の見通しをもち、自主的な取り組みで充実した休みにするとともに、お手伝いも積極的に取り組みましょう。また、コロナの感染対策や熱中症にも気を配り、体調を崩すことなく生活をしてください。8月24日（火）の2学期始業式で元気に再会しましょう。

## 1 学期終業式 校長のはなし（一部抜粋）

第2ステージのテーマ「挑戦」と「飛躍」は夏休み中も継続です。部活動は行われますが、一日丸々自分で使える時間になります。その時間をどう使うかは、一人一人に任せられています。皆さん、8月23日、夏休み最終日の自分の姿を想像してみてください。何ができていればいいですか。どんな自分になっていればいいですか。今、想像した自分を手に入れるために、計画するときには一日一日、「やらなければいけないこと」、「やりたいこと」などを24時間の中に上手に当てはめてみてください。そして、その取り組みを振り返りながら、うまくできたら自分を思いっきりほめてください。もし、うまくいかなかったら「次はここをこうしよう」と具体的に修正してください。その繰り返しの中で獲得した力こそ本物であり、そのたゆまぬ営みこそがこれから生きていく皆さんに必要な力だと思います。

この東京オリンピックで日本の金メダル獲得第1号となった男子柔道60kg級の高藤選手は、前回リオ大会で金メダル確実と言われながら、銅メダルに終わりました。彼は、その敗因を「自分は強いというおごりで、平常心を保てずふわふわした気持ちのまま臨んでしまった」と振り返っています。そして、そこから彼は「自分をコントロールすること」を意識しながら、弱点である「下半身を鍛え上げ、足もとをねらってくる相手の低い技の受けの技術」を磨いたそうです。また、同時に、自分のよさにさらに磨きをかけるために「変幻自在と評価が高かった投げ技を左右どちらからでも投げられるように技の引き出しを増やす取り組み」をしたそうです。

このように、オリンピックで活躍するアスリートも、やっていることは皆さんと同じです。自分自身を振り返り、どうすればより向上できるかを考え、修正を加えながら努力をしているのです。その時、「簡単にあきらめないこと」も大切なかもしれません。

